

【実践報告】

保育実習及び保育実習指導の報告（教育）

広島文教大学教育学部教育学科

教授 上 村 加 奈

教授 杉 山 浩 之

准教授 牧 亮 太

1 はじめに

国家資格「保育士」の取得を希望する学生は本学科指定の科目を段階的に履修する。保育士としての使命を自覚し、職務内容について理解を深め、保育に関する実践的能力を育成することを目的としている。2022年度は幼児教育コース2年次生45名、3年次生43名を対象に指導にあたった。幼児教育コースの学生は幼稚園教諭一種免許状取得の学修にも取り組んでいる。

これまでも、幼稚園実習担当者と連携を図りながら効果的な学びとなるよう指導内容ならびに指導方法を模索してきた。今年度は実習評価票の検討に注力した。学生自身が実習の成果と課題を認識し、自律して学修できるよう検討に取り組んだ。

2 実施のスケジュール

科目	単位	開講期	主な内容
保育実習指導ⅠA	必修 1単位	2年後期	実習の目的や意義、児童福祉施設（保育所・施設）の理解、子どもの人権、プライバシーの保護と守秘義務、保育士の仕事と役割の理解など基礎的な学修を行う。
保育実習指導ⅠB	必修 1単位	3年前期	実習における倫理・個人情報の取り扱い・心がまえや健康管理を実践的に学ぶ。観察、記録、を具体的に理解し、実習の目標と課題を明確にする。
保育実習Ⅰ（保育所） 保育実習Ⅰ（施設）	必修 各2単位	3年 8－9月	保育所及びその他児童福祉施設において各10日間の実習を行う。
保育実習指導Ⅱ 保育実習指導Ⅲ	選必 1単位	3年後期	実践や事例をもとに、保育の観察、記録、保育の改善について理解する。 保育を総合的に理解するための目標と課題を設定する。
保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ	選必 2単位	3年 2－3月	保育所またはその他の児童福祉施設において、10日間の実習を行う。

保育士履修説明会（1年生対象 4月開催）並びに保育実習指導ⅠA学修前指導を実施し保育士資格取得の意識と心がまえの涵養に努めている。

3 実施の概要

(1) 保育士履修説明会

今年度は教職センター主催保育士履修説明会を学科ごとに実施することとした。入学段階であるが、保育士について正しく理解し取得する資格を選択すること、見通しをもって学修に臨むことをねらいとした。保育士に求められている社会的な役割と倫理に続き、教育学科のカリキュラムの特徴と保育士養成課程の説明を行った。本説明会への出席を保育原理（1年後期科目）の履修要件とし、科目担当教員が保育士科目の関連や実習とのつながり、保育士職に求められることについて指導した。出席者のレポートから、保育士職に対する認識を新たにし学修に臨む意識をもったことを確認した。

(2) 保育実習指導ⅠA学修前指導

6月中旬に後期科目の保育実習指導ⅠAの履修予定者（幼児教育コース45名）に、2年後期から3年後期までの保育実習指導および保育実習の学修の全体像、シラバスや課題（施設実習などに関する内容）の説明を行った。課題の提出（実習希望の保育所調査）を7月初旬までに行うため、例年よりも早く学修指導を行い、回収後は、個別に実習希望園の調整を行った。

(3) 保育実習指導ⅠA

本授業のねらいは、実習に関する基礎的な内容に加え、国家資格としての保育士の資格を得るための一連の保育実習指導と保育実習の学修に臨む心構えや学修態度を身につけていくことである。守秘義務や信用失墜行為の禁止などを含め、保育士を目指す学生として、保育士として勤務する者としての倫理観の養成を強く意識して指導を行った。第1回は本授業のねらいと日程、実習に向けての重要な授業であることを踏まえ、実習資格要件や履修上の注意を主な内容とした。第2回は実習の意義と目的、実習施設の内諾手続きを主な内容とした。第3・4回は保育所の役割と機能を中心に保育所実習の理解を深めた。第5・6・7回は施設実習に関して、施設の役割と機能、入所者の理解、保育士の仕事の理解についてDVDを活用した。実習先の内諾は、まず保育所を10月以降から行い、施設は11月以降で行うように2段階で行った。

(4) 保育実習指導ⅠB

本科目では、保育実習指導ⅠAを踏まえ保育実習Ⅰ実施に向けた学修内容としている。①実習における倫理と心構え②実習での学びの具体的理解③目標と課題の設定④日誌の書き方の理解が主な内容である。

「実習の倫理と心がまえ」は、全国保育士倫理綱領を用いた講義に続き、グループで事例検討に取り組んで行動指針を確認し、状況を判断して行動できるようにした。「個人情報の取り扱い」は、1年次「幼児の理解」、2年次「幼児教育の体験活動」に続いて保育実習指導においても一貫した内容で指導し、保育実習で重点的に取り組む事項として、施設実習等の事例を基に学修した。

実習を行う保育所ならびに施設の概要を把握する課題を課して理解を促した。把握が容易か否かの事実からその理由を考えさせ特性理解につなげたり、事前訪問での質問項目を考えさせたりして、能動的に実習園理解に取り組むようにした。

実習園の概要を踏まえ、目標と課題の設定をした。今年度から、全国保育士養成協議会「保育実習指導のミニマムスタンダード」が示す評価票を導入した。保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習Ⅱ（施設）それぞれの評価項目と評価のポイントから、到達目標を具体的に確認しながら各自が目標に対する課題を設定した。

日誌の書き方は、保育所は2年次までの实地観察および体験活動の学修を想起させ、保育所実習における日誌の書き方を指導した。種別の理解とともに段階的に学ぶことで整理できていた。施設実習における日誌は種別によって違いがあるため、事例を示して重点項目を伝え、事後学修でも各自が書き方を復習できるようにした。

一昨年に引き続き健康管理の内容として、新型コロナウイルス感染防止の対策に重点を置いたこと

は言うまでもないが、変化する感染状況の把握や感染対策を重点的に指導した。看護師を招聘し、感染症に関する知識と感染予防対策の指導を受けた。

(5) 保育実習Ⅰ（保育所）・保育実習Ⅰ（施設）

初めての保育実習となるため、不安を軽減して目的意識をもって臨めるようにした。実習開始時期の8月中旬から感染が拡大し、実習園と感染状況を確認し大学としての対応を判断しながらの実施を余儀なくされた。学生は事前学修を踏まえて、報告・相談しながらおおむね適切に対処できていた。1年次から感染対策をして幼稚園での観察体験をし、2年次は幼稚園での5日間の実習を経験していることの意義を確認した。実施状況は、新型コロナウイルス感染症による中止が1件、その他は日程変更があったものの無事終了した。

(6) 保育実習指導Ⅱ・保育実習指導Ⅲ／保育実習Ⅱ・Ⅲ

保育士資格希望者全員が保育実習Ⅱを選択したため、保育実習指導Ⅲ・保育実習Ⅲは履修者がいない状況となった。

保育実習指導Ⅱの目標は、「保育実習Ⅰ（保育所）」の目標達成に関する振り返り、これまでの学修内容の関連性を踏まえ、保育実践力を培う発展的目標を設定する。保育士の専門性と職業倫理について理解を深めることとした。

保育実習Ⅰ（保育所）終了後に、学修内容を個別事後考察報告書にまとめる。個別事後考察報告書をもとにグループ討議・資料作成・報告と意見交流を行った。子ども理解に基づいた援助及び環境などを問う意見交流となった。各自が作成したレポートから、実習における取り組みと学びを踏まえ、自己課題設定につながっていることが確認できた。個別に評価開示面談を行い、学びの確認と次の実習への課題の明確化を図った。

保育実習Ⅰ（保育所）と保育実習Ⅱを総合的に捉え、保育に対する課題や認識を明確にして目標と課題の設定に取り組むようにした。保育実習Ⅱの評価票と評価のポイント示しながら発展的な内容になるよう、グループ討議と意見交流を行った。実習日誌の書き方も、保育実習Ⅰの振り返りかえりを行うことで、実習先での指導内容と、実習期間中の成長を確認するとともに、次に向けての課題を見つけ出すことができていた。「目標と課題」と日誌の書き方の学びを連携させることで、学ぶ内容が具体化されていった。履修学生全員が10-11月に幼稚園実習を行う。種別の違いはあるが「目標と課題」、「実習の記録」などの書き方や記載内容において、幼稚園実習での経験を踏まえて深めることができるように指導した。

保育実習指導ⅠBで得た知識の定着度を確認するために、保育士の倫理、個人情報取り扱い、実習の心がまえ等の小テストを実施した。学生は、小テストに取り組むことでこれまでの学びを振り返り自身の定着度を確認することになる。授業内で誤答状況を確認して指導を行うことで、保育実習指導ⅠBを踏まえた理解に繋がった。学修記録からは、理解度の確認と実習までに復習する内容が明確になったとの記載があった。

保育実習Ⅱは、新型コロナウイルス感染症に加えてインフルエンザとノロウイルスへの対応を迫られる状況になった。看護師と打ち合わせをして、実習において感染予防対策を講じる疾病について具体的な内容で指導を行った。

4 成果と課題

(1) 実習指導開始までの学修とのつながり

保育士資格取得希望者は、1年次4月開催の保育士履修説明会から本学での学修を開始することとなる。保育原理（1年後期保育士必修科目）の授業担当者が、保育士履修説明会を保育原理の履修要件と位置づけ、本説明会での理解を授業において深い学びにつなげるようにしている。入学時から学

びが連続性をもつことを知り、科目のつながりを認識することで学修内容の深まりが期待できる。保育士必修科目の履修要件となっているため、欠席者には補講を実施している。近年の保育士履修説明会の出席とその後の学修状況を照会したところ、保育士科目ならびに実習において、保育士履修説明会欠席者が再度履修や対応の指導を受ける割合が多いことを把握した。学生は入学後に正しい知識を得て、指示内容を理解した行動をすることで、円滑に履修を進めることができる。実習は学生の特性が表れやすい場であり、特性に応じた指導を要する。教員も入学直後から学生の特性を把握する機会となり個別指導を適切に実施する検討ができる。

(2) 実習間の連携

昨年度までに、実習における学びの連続性に関する体制づくりに取り組んだ。1年次の「幼児の理解」から保育実習指導Ⅱ・Ⅲの段階的な学修内容と、学生が自覚する自己の成長と課題認識を把握した。今年度は、教育実習（幼稚園）と保育実習Ⅰ（保育所）・保育実習Ⅱの評価票改訂に取り組んだ。幼稚園と保育所は、所轄官庁ならびに免許・資格、実習科目の違いはあるが、就学前の子どもが通園する施設であり、保育・教育内容においても幼稚園教育要領と保育所保育指針の整合性が図られている。幼児教育コースの学生が進路を選択する際も、専門職への就職先として種別（幼稚園・保育所・認定こども園）に迷っている。実習科目による違いを明確にしながら、実習の成果と課題については連続して捉えられるようにする効果は大きい。そこで、教育実習（幼稚園）と保育実習Ⅰ（保育所）・保育実習Ⅱの評価票の同時改訂に取り組んだ。目標と課題の設定、日誌記載による学び、実習の事後学修に加え、実習の自己評価と評価開示面談において、成果の理由と課題内容が明確になる学生が増加傾向にある。本評価票導入の初年度となるため、次年度以降の実習指導と進路選択などの状況を把握して検証していく。

(3) 実習指導の在り方

昨年度までに、新課程における保育実習指導ならびに保育実習の全科目が開講された。今年度は、これまでの実績を基に効果的な実習指導に取り組んだ。保育実習指導受講学生が提出した課題や小テスト結果、実習評価票ならびに訪問指導報告書の内容から、おおむねの成果を確認した。理解不足が確認された学生は個別指導を実施しているが、昨年度より対象学生数が減少している。しかし、昨年度まではオンラインとの併用開講であり、今年度が新課程となって初めて全授業を対面実施した。保育実習Ⅱが2月実施予定であるため、今年度の全ての実習と事後学修を経て新課程の指導内容の検証を行う。

(4) 実習経験と就職活動

学年を越えて実習経験を報告し交流すること、就職活動の取り組みを学生の自治組織で行い下学年に報告することが、初等教育学科からの伝統的な取り組みとなっている。3年前からオンライン授業の導入、大人数が参集することが難しい状況となり、機会の減少や非対面での実施となっている。前述の状況下で、実習での経験を基に、その年ごとに学生たちは工夫して就職活動の取り組みなどを行ってきた。コロナ禍における、実習の学びの実態を学生から知ることとなった。次年度からはコロナの対応が変更される。3年間の実践から、必要とされる就職活動の取り組みについて検討する好機としたい。

実習で関わりの制限を余儀なくされた学生は、昨年以上に就職後に不安を抱えている様子がみえた。次年度はコロナ禍で入学した学生が就職活動を行う。実習での学びを踏まえ、就職活動時の学生の様子を注視しながら就職指導を行っていく。